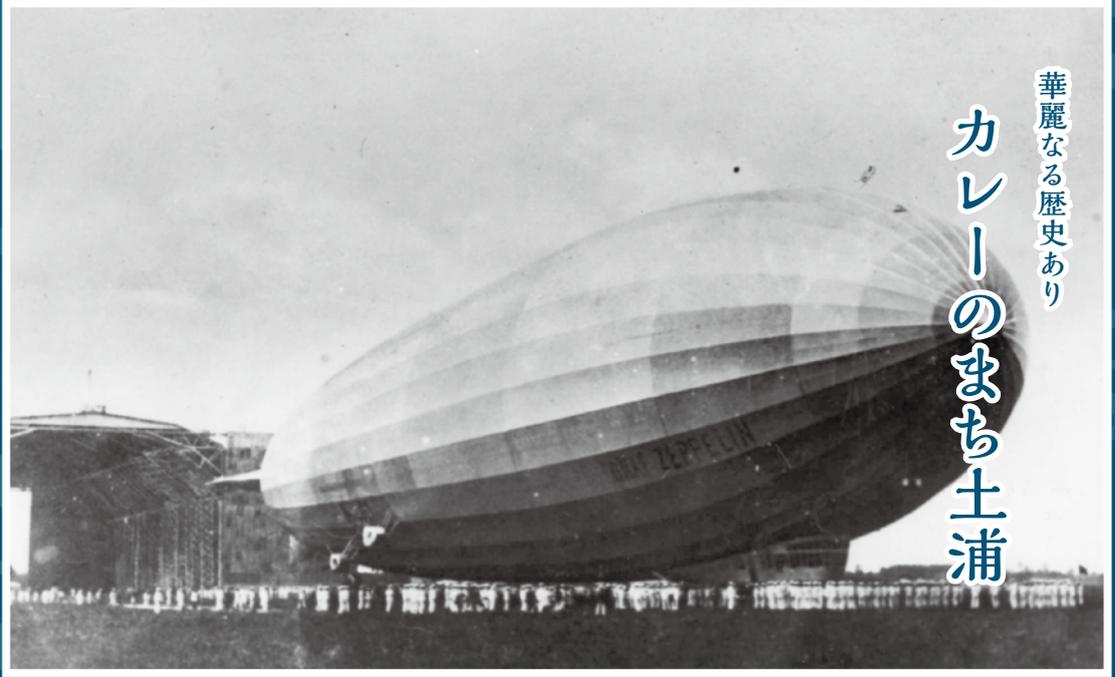


ぶらりと土浦—意外と知らない土浦 Vol.4—

華麗なる歴史あり

カレーのまち土浦



カレーは明治時代以降に日本に広まった食べ物です。しかし今ではすっかりわたしたちの生活におなじみの料理として定着しています。給食の人気メニューの常連で、子どもから大人まで、世代を超えて人々に愛されています。

日本の国民食といっても過言ではないカレーですが、とくに土浦では古くからカレーとの関わりをもってきました。霞ヶ浦海軍航空隊のお膝元、海軍ゆかりの街として栄えていた当時、海軍では航海が長くなっても曜日感覚を失わないよう、週末にカレーを食べる風習がありました。また山本五十六元帥が土浦の神龍寺に下宿していた際、暑気払いに激辛カレーを食べていたというエピソードも残っています。また昭和4(1929)年、ドイツの大型飛行船「ツェッペリン伯号」が世界一周の途中で霞ヶ浦に飛来した際、乗組員に地元食材を使ったカレーを振る舞い、もてなしたことが記録に残っています。このカレーをもとに食材を現代風にアレンジして開発されたのが「ツェッペリンカレー」です。市内の幼稚園・小中学校では給食としても提供されています。

このような土浦とカレーとの関わりを背景にすっかり土浦の秋の風物詩となった「つちうらカレーフェスティバル」。今年は11月18日、19日に川口運動公園陸上競技場で開催されます。土浦最大の食のイベントで「カレーのまち土浦」を感じてみてはいかがでしょうか？



ツェッペリン伯号の模型



ツェッペリンカレー



ツェッペリンカレーレド

意外と〇〇!
つちうら